

題「波」 田辺与志魚 選

特選

コスモスの波を泳いで行く帽子

庄原市 新宅 涼枝

【評】 簡素な表現ながらはつきりと情景をとらえたのがすごい。帽子の主は恋人であろうかそれともお子さんだろうか。

いろいろな波と遊んだ丸い石

東広島市 渡辺 典子

【評】 おそらくは波乱の人生であろうがここではそれを遊んだ、と書いた。まさに丸い人格がそこにある。

望郷の耳朶に棲んでる波の音

尾道市 前中 吾一

【評】 たしかなことばの選択と順序の構成が完璧。ふるさとの波音は作者の中にはつきりと残り決して消えることはない。

さざ波が岩をも碎く平和賞

庄原市 石田 素風

波の打つ太鼓は生きる音となる

呉市 荒新 悠子

**【評】** 平和賞にたどりつくまでのあくなき活動をさざ波としたことでこの句が大きくなった。読者の感動をよび起こす。

**【評】** 潮の打ち寄せる音のように力強く生きることは人間の理想であろう。そこにゆるぎない応援歌を聞いた。

何もかも奪つた波が風いでいる

五体にも喜怒哀楽の波が住む

老いの道まだ押し寄せてくる波紋

我が想い行き着く先を波に問う

正直に鏡が告げる老の波

恋一つ波に隠れた物語

買い物の手をまよわせる税の波

荒波をくぐつた指の太い節

瀬戸の波静か浄土の声を聞く

潮騒が心の濁おりを流し去る

広島市 周藤 悠奈

広島市 河浦 邦子

福山市 宝諸 京子

広島市 中森 明子

三次市 林 勝子

尾道市 砂田 千春

広島市 田辺美和子

広島市 日下 洋子

広島市 高橋 孝造

福山市 貝原 辰二

関税の波が七つの海に立つ

いつの日も消波ブロックだった母

残り火を静かに瀬戸の波まかせ

大波小波もまれどこでも生きられる

思案している間に波が消えている

さざ波を軽く見ていた高い付け

浮き浮きの波状攻撃孫が来る

バツイチがどしたん波が荒れただけ

ライバルが一列で行く波がしら

球場に大波小波うねる波

広島市 吉村 充

福山市 村田 幸夫

竹原市 室 晃二

広島市 福田 淳子

広島市 有田 澄子

広島市 大杉 紗子

東広島市 寺内由美子

三原市 蔡 帆子

広島市 大杉 卓雄

府中市 田辺 羽子